栗東国際交流協会 会報

Koryu

Ritto International Friendship Association

2001年1月号
（VOL.5）

栗東国際交流協会
〒520-3088
滋賀県栗太郡栗東町安養寺1-13-33
TEL 077-551-0293 FAX 077-554-1123
E-MAIL rittoing@mediawars.ne.jp
編集 総務広報委員会

第10回異文化交流サロン

ボウリング大会・交流会 2000年11月19日(日)

去る11月19日(日)午後2時30分から、第10回異文化交流サロンが行われ、約50名（うち在住外国人参加10名）が参加されました。会員同士そして在住外国人との交流と日頃の運動不足の解消を目的として、ボウリング2ゲームを行いました。ウイングプラザ4階の栗東ボウリングジムの約半分のレーンを借り切り、一斉にゲーム開始。緊張した雰囲気の中でゲームが始まりましたが、全員が一通り投げ終わると、各レーン毎に大いに盛り上がりました。ストライクやスペアを取ると拍手喝采。中には、はじめてボウリングをしたという方もいらっしゃいました。

ボウリング大会の模様

栗東町の友好都市、衡陽市出身の方も参加されていて、「ボウリングは中国語で「保龄球（バオリンチウ）」と言います。」と話しながら、参加者とともにとても楽しんでおられました。

中国の童謡を歌う、衡陽市出身の劉さん(右)

約1時間30分で全員がゲームが終わると会場を移動し交流会へ。交流会では、ボウリングの結果も発表され、上位3名、ぴったり賞、ブービー賞が発表されました。

また交流会の中で、中国・ブラジル・韓国・ペルー等の童謡がCDで紹介されると、参加された在住外国人の方が歌って下さり、みんなで和気あいあいとした雰囲気の交流会でした。また、在住外国人の方から日本の印象などを話していただき、国際理解を深めました。

今後も形態を変えながら異文化交流サロンを開催して参ります。

ボウリング順位（ハンデなし）

優勝	333	小田原 宣	さん	第10位	209	梅林 和美	さん
第2位	289	合田 美智子	さん	第20位	176	中村 洋三	さん
第3位	261	中島 武彦	さん	第30位	143	古市 信子	さん
第4位	260	山口 善彰	さん	第40位	106	谷口 千尋	さん
第5位	250	John Webster	さん	ブービー賞	64	古市 智子	さん

第４回中国湖南省衡陽市訪問栗東町使節団派遣

2000年10月5日(木)～10月11日(水)

栗東町の友好都市中国湖南省衡陽市を訪問し、衡陽市民との交流や中国の社会、文化、習慣を理解し、国際理解・国際親善を深めると共に、今後の交流内容について協議を行って来られました。今回は衡陽市で４年に一度行われる「南岳衡山寿文化節暨廟会」の開催に合わせて派遣いたしました。

高　田　徳　次

「未だ見ぬ大地、中国」に大きな期待を抱きながらの訪中でした。衡陽市の最大のイベントで４年に１度開催される南岳衡山寿文化節暨廟会では、メーンイベントである衡陽市の象徴「鼎」建立の除幕式、南岳での超人的な綱渡り、夜に行なわれた歌謡イベントにはいずれも10万人の参加者に「びっくり」でした。この暨廟会で挨拶をしたのが湖南省長、中国共産党湖南省書記、栗東町使節団長の高田徳次でしたが、これは720万人、衡陽市民の熱烈な歓迎と栗東町に対する期待の大きさを表しているものと改めて感動した次第です。

久　徳　政　和

初日は南岳で10万人が参加のイベント、翌日は迫力ある格闘技などの練習を見学した後、今後の交流に関し、提携10年の記念事業、双方の派遣および農業関係者の日本への派遣希望などについて協議した。衡陽県では、上級中学校（日本の高校、全寮制）と鄉工場を見学した。レセプションでは夜にもかかわらず、多数の小さな子供が歓迎してくれたのが印象的であった。湖南省の省都、長沙では、道路やビルの改築突貫工事があちこちで見られたが、その一方で耕地整備やハウス栽培など、農業振興もうかがえた。

猪　飼　光三郎

2000年中国南岳衡山寿文化節暨廟会開幕式で、衡陽市が平素より交流を深めている日本、アメリカ、ロシア、インドなど10カ国からの約100名の来賓を代表して栗東町使節団長の高田徳次助役が壇上で堂々と祝辞を述べられたことは、私達団員としても光栄であり、誇りであるとともに衡陽市が栗東町を最大のパートナーと意識している表れで、衡陽市の友好親善への意気込みを肌で感じた。

最近の中国の感想

- ◎街は活気に満ちている
- ◎教育を重視し、その徹底を図っている。
- ◎食生活・服装の変化

11月19日(日)13時30分から約30人の出席のもと報告会を開催させていただきました。詳しくは既に配布しています報告書をご覧下さい。

渕　田　佳　子

全般的に漠然と意識させられたこと、それは、中国では平均的○○という言葉が通用しないのではないかということです。これは一例にすぎませんが、設備の整ったホテルと掘立小屋のような住居兼店舗が混在している。

私から見ると違和感はあるけれど、だれもおかしいと思っていない（らしい）。百聞は一見に如かずを地で行ったような旅でした。

千　代　早　苗

今年の３月に来日された団員が経営されているホテルに宿泊したり、見学をしましたが、日本にきて本当によい勉強になったと聞きました。事実、他のホテルには見られないような従業員教育の厳しさや、食事の盛り付けの工夫、客室の改装などに彼らの意気込みが見られて嬉しかったです。日本にきたことが職場でどう生かされているかを知ることで、日本での滞在中にお世話させていただく喜びにつながります。

中　村　洋　三

３年前、栗東に中国衡陽市から来られた農業使節団の方々が日本（栗東）の農業に強い印象を受けられたと聞き、はたして中国のように広い国（アメリカのような広大な農業風景を想像していた）で日本のように小さな国の農業が参考になるのかと疑問に思っていましたが、今回行ってみて、国土は広いが農業規模はあまり変わらないのではないかと感じました。ただ、バスの窓から眺めての感想で、しかも、中国は社会主義国で体制の違いもありますので一概には言い切れませんが、日本の農業は大いに参考になると思いました。

衡陽市政府表敬訪問

読者コラム

定年退職後をこの方のように過ごす…???
寄稿くださったのはRIFA監事の池永静義さん。今回のこの旅行で一体何度目になるのでしょう。また近く世界一周の旅に出かけられるとか。とにかく聞いてみましょう。

小さな勇気、大きな親善

池永静義（67才）

今秋　REGAL PRINCESS（70,000Ton）の日本初寄港を記念したVANCOUVER（CANADA）からアラスカ・北太平洋・極東を回る21日間の格安クルーズを楽しんだ。船客1,400人の大半が欧米人で日本人は僅か200人足らず。
アラスカ州都ジュノーでは陸路でメンデンホール氷河へ、翌日北米一といわれるハーバード氷河を船から観光。青空を舞う白頭鷲、鯨、雷鳴に近い音を立てて滑落し海に落ちる氷河…只ただ自然の驚異に感嘆。船旅の醍醐味は寄港地観光もさることながら、新しいお出会いを求めて如何に船内生活を楽しむかである。

《小さな勇気》を起こし、あえて３週間３組のアメリカ人ご夫妻と夕食テーブルをご一緒させてもらった。シドニーオリンピック、寄港地案内など船内新聞・ＴＶのお陰もあってお喋りの話題に事欠かなかった。

《小さな勇気》　KARAOKEは今や全世界版。残念だが日本語カラオケは無く、逆に英語KARAOKE CONTESTが催された。上手下手を競う気はなく、楽しくなければカラオケではないと割り切りTENNESSEE WALTZを披露した。アメリカ人はおおらかな国民性、感極まったおばさまが“OH GOOD BOY! FRANK SINATRA!”と人前はばからず抱きつく始末。歌に国境なし。瞬く間に人の輪ができ、ささやかな国際親善の場になった。

《小さな勇気》室蘭寄港後一路ウラジオストック（ロシア）へ。日本海のど真ん中で船客によるタレントショウの募集があり“DOJO SUKUI”を申し込んだ。独唱・楽器演奏・社交ダンス・寸劇などがあり事前に各自具体的な説明を求められ13組のトリを仰せつかった。自ら英語によるナレーションも買って出て“どじょうすくい”の生い立ち、DOJOって何？、ざるや野良着の腰のひくへの説明…“IS MY ENGLISH UNDER-STANDABLE?”にシーンとしていた観客席はYES! YES!の大連呼。栗東図書館から借りたテープと振付け解説書に沿い前半は正調安来節、後半は面白おかしく自作自演のDOJOと戯れる姿に場内は大爆笑。アンコールに化粧係と再登場する始末。数日間皆さんから感動したお言葉を沢山賜った。特に“日本人のために良く頑張った、肩身が広くなった”とのお言葉が多かったが、本人は至って真面目「日本も地球規模で見れば一地域社会。日本人という意識よりも地球家族の一員」という気持ちで“見て判る楽しい日本古来の文化の一端を下手の横好きが一寸ご披露したかっただけです”とお答えてしておいた。

ともすれば外国船ゆえ、とかく日本村・東京村を作りがち。少々言葉が喋れなくとも《小さな勇気》HELLOとTHANK YOUを上手く生かし、所詮日本人の喋る英語なんだと割り切ればいずれ《大きな国際親善》に繋がるものだと実感した船旅であった。お別れパーティでのスナップだが、お口のもどかしさはお手手で補完してでも精一杯彼らの善意に謝意を表したいと《小さな勇気》を鼓舞しているひとこまです。

読者コラムにご投稿ください

ＲＩＦＡ日本人会員・外国人会員どなたでも、またエッセイ、紀行文、詩、短歌や俳句など何でも結構です。採用分には薄謝をさしあげます。

郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・TEL／FAXを添えて事務局までお送りください。なお、匿名を希望される方はその旨お書き添え下さい。